

新飯能

発行 日本共産党
飯能市委員会
973-1091

金子とし江
972-6401
山田とし子
973-4710
新井たくみ
978-0175
滝沢おさむ
972-3875

<議員団の連絡先>
973-2111(市役所456)
Mail jcp-sigi@
pluto.plala.or.jp

医師不足を理由に

民間委託を検討か？

第4回の有識者会議開かれる

第4回目となる市立病院及び地域医療のあり方に関する有識者会議が17日開催され、病院改革の方向性が議論されました。

国が病院改革のガイドラインを示す

国のガイドラインの特徴は、過去3年間連続して7割未満のベッド利用率の病院は、病床数を抜本的に見直すこと。20年度内に改革プランを策定することなどです。

埼玉医大の後方支援病院？

こうした議論のなかで、「有識者会議として改革の方向性を出す時期に来ている」として、これまでの論点整理を行い、「医師が3名欠員で、2名体制という事態が一番問題だ」「医師確保のためには、埼玉医大などと連携し、後方支援病院として検討できないか」

飯能市立病院

公立病院の役割の議論なし
議論を通じて感じることは、当初議論されていた地域医療や公立病院の役割の議論がないことです。また医師不足についても将来とも変わらない固定的なものとして見えています。国のガイドラインを無批判に受け止めての改革論議では、公立病院を守り、発展させることは

収益が上がる農業を 農業委員会と 農業後継者が懇談



飯能市農業委員会(利根川亭会長)は22日、飯能合同庁舎を会場に、市内の認定農業者・農業青年会議所のメンバーと懇談しました。川越農林センター飯能普及部や農林課から担当者が出席、新井市議も農業委員として参加しました。

事務局から農業委員会が地産地消に取り組み、市内の22校の学校給食と病院・介護施設にも地元農産物が積極的に利用されていることなどが紹介されました。

利根川会長は、「農業委員会の課題として、遊休農地の解消に取り組んでいる。農政に対する皆さんの意見や要望を聞かせてほしい」と挨拶。

新春バスツアー-in袋田の滝

日本三名瀑「氷結の袋田の滝」と魚のまち、「那珂湊漁港」の旅
間もなく完全凍結。

2月3日(日)

集合集発、飯能市役所7:00
会費 大人6000円(昼食込み)

障害者(2000円引き)70歳以上(500円引き)小学生2000円引き



主催：日本共産党飯能後援会
日本共産党飯能市委員会



後継者からは、「トラクターが入れないような畑ではダメ、農道整備が必要」「新規作目の検討も必要だが、合わせて販路の確保が必要だ」「農地を守れというだけでは、遊休農地は解消できない。農業で高い収益が上げられようしなければ…」
「市民に農業が対する理解が得られるような対策が必要」などの声がたくさん出されました。

波 紋

まんが『蟹工船』は「おい地獄さ行くんだで」という言葉で始まります。その言葉どおり、雑夫と呼ばれる貧しい日雇い労働者たちは、オホーツク海で蟹を獲り缶詰に加工するために、実働十六時間、休日なしという非人間的な過酷な労働を強制されます▼小林多喜二の原作が漫画になったものが、志位委員長代表質問を聞いて、『蟹工船』が漫画になった理由がわかるような気がしました。派遣労働者は年収二百万円以下という低賃金で、社会保険ナシ、残業代ナシ、交通費ナシ、社員食堂が使えない、名前ではなく「ハケンくん」と呼ばれるなど人間としての尊厳を踏みにじられているのです。『蟹工船』の「雑夫」は現代の派遣労働者の姿ではないかと怒りがこみあげてきます▼「一度派遣に入ったら抜けさせません。私たちは苦しんで涙して働いても希望もありません」。若者の痛切な声です。『蟹工船』では、労働者は二度目のストライキを成功させ、「組織」「闘争」の偉大な経験を学んでいきます。若者へのメッセージが伝わってくるようです。

米軍艦に給油するなら

国民に灯油を 伊藤候補が訴え

1月20日、恒例の「08年・新春のつどい」(山下由治実行委員長)が中央公民館ホールで行われ、140名を超える参加者でにぎわいました。一部の式典で挨拶にたった、日本共産党衆議院北関東ブロック比例予定候補の伊藤岳氏は、「アメリカの軍艦にタダで給油を続けるお金があるのなら、国民の家庭のストーブにたっぷり灯油を注いでほしい。これが皆さんの実感ではないでしょうか。近く予想される衆議院選挙でアメリカ言いなり、大企業優先の逆立ち政治を変えよう」と訴え、会場から大きな拍手が起りました。

新井巧党市委員長は、「今年は総選挙勝利と来年の市議選準備、市民生活を守る闘いを統一してすすめ、必ず勝利しよう」と呼びかけました。

二部の文化行事では、すぎのこ民謡会の津軽三味線や名栗川音頭などの民謡と踊り。吾野後援会から浪曲、婦人後援会の南京玉すだれ、業者後援会のフラダンス、飯能西後援会の舞踊「武田節」・「きよしのソーラ節」・「坂東太郎」や横笛とクラリネット演奏、中央後援会のコーラスなど日頃の鍛錬の成果をみごとに披露。今回は、趣味の写真展示コーナーも作られ、一回り趣向を凝らし



業者後援会のフラダンス

味の写真展示コーナーも作られ、一回り趣向を凝らし

たつどいとなりました。今年も、総選挙の年。元気よくスタートがきれました。



建設労働者後援会が餅つき

職人の組合、埼玉土建飯能・日高支部内の建設労働者後援会主催による恒例の餅つき大会が開催されました。



参加者と語る伊藤候補

新春のつどい

蒸し上がったもち米は、手際よく臼の中に、腕に自信のある職人さん達がつきあげた餅は、主婦の会の皆さんの手で、餡やゴマ、きな粉のおいしいお餅になり訪れた方を満足させていました。また、焼きそばやフランクフルト、わた飴など多くの模擬店も並び、地域の方も子どもづれで一緒に参加し会場が賑わいました。

会場には、衆議院北関東ブロック比例代表の伊藤岳氏予定候補、山田利子、滝沢修両市議も参加し、「ともに力を合わせて、建設業者の仕事と暮らしを守りましょう」と激励しました。

文化欄



川柳

● 温暖化企業論理を押し通す

● 世論無視米言いなりの給油法

● 清水の「偽」という書で年を越し

● 賀状まで偽装見抜けぬおめでたさ

● 「大連合」偽の政治は許さない

永田一夫

市長応接室の改修 今、必要ですか？



木の香りただよう、リニューアル市長応接室が話題をよんでいます。西川材の活用促進と、「森林文化都市」としてのイメージアップにつながるというもので、市長応接室改修費の約400万円(床・天井・壁面の張替え361万円、テーブル40万円)は、19年度予算に庁舎施設整備事業として3600万円の内に予算化されました。

内容は、相談室の設置が中心で、特に子育てや介護の相談、暮らしや営業が立ち行かなくなってきた生活保護の相談を求める市民が多くなっていることから、相談室の増設は適切なものといえます。

しかし、市長応接室の改修工事は緊急性はなくても早く手を付けなければならぬ市民要望は山積しているのです。たとえば平成4年3月に区画整理事務所として使っていたプレハブを民間保育所の敷地内に移設して開設した「双柳学童クラブ」は、老朽化もはなはだしくシロアリが発生するまでになっており、建

て替えが強く望まれています。議会での再三の質問にやっと、「総合振興計画3年間の実施計画に位置づけ、できるだけ早い時期に実施したい」と、市の姿勢を明らかにしましたが、改修された明るい市長応接室を見ると、あらためて「優先順位がちがってる！」との声が寄せられています。

12月議会に名栗幼稚園の授業料を月額5500円から9000円に値上げする条例案を出しましたが、こんな工事をしなければ2年間値上げを抑えることができたのではないかと考えるのは当然です。

無料何でも相談会

2月17日(日)

午前10:00~午後3:00
場所:一丁目クラブ
(消防稲荷分署南側)



サラ金、国保滞納、税金、年金相談、相続問題など一人で悩まずに、何でも御相談下さい。弁護士・社会保険労務士など専門家と、日本共産党飯能市議団が対応します。主催:飯能日高土建・飯能民商・清流道場・日本共産党飯能市議団

生活相談はいつでも受け付けます
お気軽にご相談ください